



西尾いきものふれあいの里だより

4月号

2026.4.1 発行

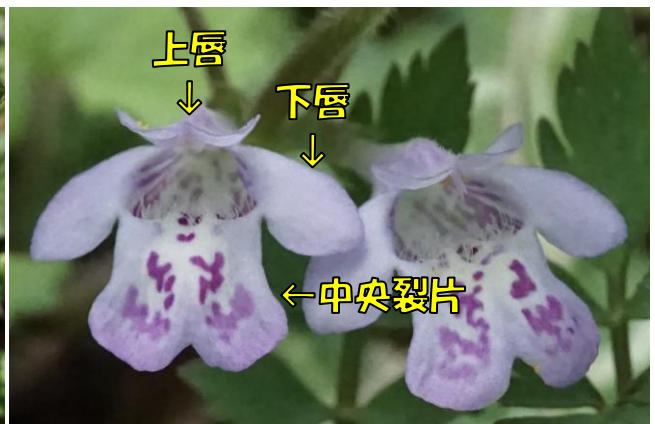
# さとやま

## 4月の里といきもの



この冬は、降水がほとんどなく、日本各地で節水が呼びかけられました。これは、平年より気温が高く、冬型の気圧配置が弱まり、雨や雪をもたらす寒気の南下が少なくなったためだと言われています。暖冬は、植物が秋～冬にかけて自分で成長を止めて眠る休眠から覚めて芽が伸びたり、花芽が動き出したりする「休眠打破（きゅうみんだは）」を早め、桜や梅、雑草類などの開花が早まりやすくなります。しかし雨が少ないため、新芽や若葉が水分不足で伸びにくく、特に浅い根の植物（草花・シソ科・キク科など）は花つきが悪くなることがあるようです。また暖冬で越冬中の昆虫が早く活動を開始しますが、花が少なく、ミツバチなどの初期の餌が不足したり、水場が減り、水生の昆虫の生息環境が縮小し、トンボなどの発生数が減ることもあります。また、雨が降らないと、アカガエルやヒキガエルの産卵が遅れます。このような様々な影響が考えられますが、里の春はどうなるでしょうか。

ハンノキ広場やトンボの里の足元で、2つ並んで咲いている紫の花を見つけることができます。これはシソ科の多年草**カキドオシ**です。シソ科らしい唇形花（しんけいか）で、上唇は小さく下唇は大きく3つに裂けていて、中央裂片に紫色の斑点が入るのが特徴です。



シソ科の花は茎の節（葉の付け根）ごとに花をつけ、カキドオシは1つの節に2~3個の花がつくため、2つ並んで咲いているように見えることが多いです。

この時期に見られる、同じシソ科の多年草**キランソウ**や、サギゴケ科の多年草**ムラサキサギゴケ**に花の形が似ています。見比べてみて下さい。



カキドオシの名は、つるが長く伸びて、垣根を通り抜けるように広がる様子から付きました。また、丸い葉が連なる様子が銭に見えるため連銭草（れんせんそう）という名で、生薬として知られ、利尿や消炎、消化促進、皮膚トラブル改善の作用があります。お茶や入浴剤とし利用され、子どもの疳の虫に使われたという記録もあるそうです。

そして、若い葉や花はおひたし・天ぷらとして食べられます。シソ科らしい爽やかな香りと、ほんのりミントのような清涼感に、やさしい苦みと草の香りがあるそうです。

#### 4月はこんないきものも見られます

春が進み、里の日当たりのよい草原は様々な草花が見られます。ビオトープなど湿ったところでは、**ムラサキサギゴケ**に加えて、マメ科の1年草**ゲンゲ**（レンゲ）の花が咲きます。

中国南部～東南アジアが原産とされ、日本には奈良時代～平安時代ごろに渡来したと考えられています。渡来の理由は、空気中の窒素を固定することができるため、田んぼの緑肥（肥料）として導入されたためで、以前は春の田んぼでよく見られましたが、化学肥料の普及で最近はあまり見られません。



2月号でご紹介したハコベとよく似た花をつけるのが、同じナデシコ科の1年草、**オランダミミナグサ**です。ヨーロッパ原産の外来種で、全体に細かい毛が密生して白っぽく見えることや、5枚の花弁の切込みが浅く、10枚には見えないこと、花が密に集まることなどで見分けられます。

これも2月号でご紹介した**ホトケノザ**と同じような場所で暖かくなると増えてくるのが、よく似た花をつける、同じシソ科の1年草**ヒメオドリコソウ**です。ヨーロッパ原産で、明治以降に日本へ入った帰化植物です。ホトケノザが茎の上部に花がつくのに対し、葉に隠れるようにつきます。また、上の葉が赤紫色に染まるのも見分ける特徴です。中央広場には、珍しい白花のも見つかります。赤色の色素がないためか上の葉も緑です。

藤棚や、その先の柿畑などでは、スミレ科の多年草**ツボスミレ**が、群生して咲いています。花の大きさは1cm前後と小さめで、長く茎を出して花をつけます。色は白く、下弁（下の花びら）に紫色の筋が入ります。

どこにでもよく見られるマメ科の1年草**カラスノエンドウ**は、地中海沿岸～西アジアが原産とされますが、人類の農耕とともに広がり、弥生時代～古墳時代にはすでに存在していたと考えられ、「史前帰化植物（古い外来種）」として扱われます。

トンボの里に1株だけあるラン科の**シュンラン**は、周囲を明るく保たれるようになり、たくさん花をつけるようになりました。



里のあちこちでは、ツツジ科の落葉低木**ヤマツツジ**の、朱赤～オレンジがかった赤色の花がよく見られます。花期が長く、条件によっては12月から咲きます。短く刈り込まれても花をつけるので、万灯山山頂で毎年かぎ万燈のときに刈られても、多数の花が見られます。今季は雨が少なかったせいか冬はあまり見られませんでした。

また、トンボの里や万灯山山頂付近では、同じツツジ科の落葉低木ですが、花が小さな釣り鐘型の、**ウスノキ**の花がみつかります。実が臼のような形になるため名が付けました。

アケビ科のつる性の落葉木本、白い**アケビ**や黒っぽい**ミツバアケビ**の花は、里のあちこちで見られます。一本の花軸に少数の雌花と多数の雄花が垂れ下がって咲きます。花が咲いたからと言って実がなるとは限りませんが、センターのテラスの前のアケビは、この頃よく実がなります。



万灯山へ向かう道で見られる、ケシ科の**ムラサキケマン**や、万灯山山頂のリンドウ科の**フデリンドウ**は、以前は群生して咲いていましたが、最近はあまり見られなくなりました。温暖化のせいでしょうか。どちらも1年草であるため、環境の変化に影響されやすく、個体数が大きく揺れ動きます。今年ほどのくらい見られるのでしょうか。

トンボの里や万灯山エリアでは、メタリックグリーンのカワトンボ科の**アサヒナカワトンボ**に出逢うことがあります。

汗ばむ陽気になる日もある4月の里を散策して、こないきものとの出逢いを楽しんでください。

## 4月の行事予定



5日(日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅠ ※注1	30名	AM9:30~11:30	当園職員
12日(日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅡ ※注1	30名		

内容：里の竹林整備・環境学習の一環として、トンボの里の竹林でタケノコ掘りを体験します。竹林整備の仕方、タケノコの生え方などを教えてもらい、実際にバチ鋏(くわ)を使って採り方を学びます。

「※注1」この講座は、定員に達したため受付を終了しました。

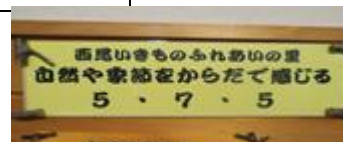
19日(日)	春のいきものを探して 里山を散策しよう	20名	AM9:30~11:30	高須桂子
--------	------------------------	-----	--------------	------

内容：春の里山で、植物や昆虫・鳥などを観察しよう。タンポポのそっくりさんを何種類見つけられるかな。



26日(日)	ゆっくり俳キング	20名	AM9:30~11:30	服部くらら
--------	----------	-----	--------------	-------

内容：里山は、ゆっくりあること、お宝があちこちに一杯です。出会ったそのお宝に一言声かけをすると、もう俳句ができてしまいます。みんなで一句ひねっちゃいましょう。



## 5月の行事予定

17日(日)	棚田でお米を作ろうⅠ(田植え) ※注2 【予備日：5/24(日)】	60名	9:30~11:30	当園職員
--------	---	-----	------------	------

内容：里山から流れ出る冷たい水を棚田に引き込み、稲の苗を手で植えます。ぬかるんで歩きにくい棚田での作業は、苦勞の多い作業ですが、子供たちにとっては、貴重な楽しい経験になります。

「※注2」棚田で米作りしようⅠ～Ⅲの講座は、参加特典として「お米」をプレゼントします。お米の量は、受講回数に応じて配付します。



31日(日)	野鳥のさえずりを聞いてみよう	20名	9:30~11:30	高田俊洋
--------	----------------	-----	------------	------

内容：春の里山で野鳥を観察します。南から渡ってきた夏の小鳥のさえずりをみなさんで聞いてみましょう。美しい姿も観察できるかもしれません。



- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が4名以下の場合には開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。小さいお子さまには、目を配るのに十分な保護者の同伴をしてください。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認

### 西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課